

前

国

語

人間文化学部

生活デザイン学科

人間関係学科

国際コミュニケーション学科

地域文化学科

(60分)

(90分)

注意事項

- 1、解答開始の合図があるまで、この問題冊子および解答冊子の中を見てはいけません。
- 2、問題は3題で、13ページありますが、志望する学科によって解答する問題が異なるので注意下さい。指定されていない問題を解答しても採点しません。
- 3、生活デザイン学科・人間関係学科・国際コミュニケーション学科を受験する者は、第1問・第2問を解答しなさい。地域文化学科を受験する者は、第1問と第3問を解答しなさい。

この注意事項は、問題冊子の裏表紙に続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

- 4、 解答開始後、解答冊子の表紙所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入しなさい。表紙にはこれら以外のことを書いてはいけません。
- 5、 解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に記入しなさい。解答に関係のないことを書いた答案は無効にする場合があります。
- 6、 解答冊子は、どのページも切り離してはいけません。
- 7、 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。解答冊子を持ち帰ってははいけません。

第1問

次の文章は山崎憲の著作の一部である。これを読んで、後の問い(問1～4)に答えよ。

注 エデンの園……旧約聖書に登場する理想郷。

山崎憲『働くこと』を問い直す』(岩波書店、二〇一四年)より一部改変

問1 傍線部ア、オのカタカナを漢字に直せ。

問2 傍線部①「この話を、王子に恋をした人魚姫が夢破れて泡になった話」と思っていないだろうか。そうだとすれば大きな誤解だ。」とあるが、筆者はどのような物語だと理解しているのか。本文の内容に即して、この物語が書かれた当時の社会状況と関連づけて、句読点を含めて一五〇字以内で説明せよ。

問3 空欄 ② に入る最も適した単語を、本文中から抜き出せ。

問4 本文の内容に合致するものを次の中からすべて選び、その番号を記せ。

- 1 産業革命が起こる前には、自らの手で土地を耕し、農作物を育て上げるという営みが、神との関係を回復することにながっていた。
- 2 神との関係を重視する欧米人にとっては、なぜ働くのかという問いかけが重要となるが、日本人にとっては問題とならない。
- 3 工場で働いていれば、「なんのために生きるのか」という問いかけへの答えが自ずと得られて神とのつながりを実感できる。
- 4 産業革命は、人々の働き方に変化をもたらしただけでなく、人間と神との関係のあり方にも変化を生じさせるものだった。
- 5 産業革命によって、働いているという実感が失われたため、人々は仕事を辞めるなどの方法で抵抗し、神との関係を回復できた。
- 6 一人が広い範囲の作業に関われば、なにかを成し遂げたという実感を持ちやすく、神との関係を紡ぎ直すことが可能になる。
- 7 経営者側は賃金や価格を調整することや、作業者に働く実感を取り戻すことで、神との関係を紡ぎ直すことに貢献しようとした。

第2問 次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】はどちらも伊藤亜紗の著作の一部である。これらを読んで、後の問い(問1と2)に答えよ。

【文章Ⅰ】

伊藤亜紗『記憶する体』(春秋社、二〇一九年)より一部改変

〔文章Ⅱ〕

〕

伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社、二〇一五年)より一部改変

注 弱視学級……弱視の生徒のための特別支援学級。

問1 傍線部①「この差異が、単純な情報の「量」には還元できない」とはどういうことか。本文中の言葉を用いて、句読点を含めて二〇〇字以内で説明せよ。

問2 傍線部②「視力が弱まるにつれて同級生がよそよそしくなっていたのはなぜか。傍線部①と関連つけて、句読点を含めて二〇〇字以内で説明せよ。

第3問

次の文章は、阿仏尼が弘安二(一二七九)年の十月、鎌倉へ下向した際に書いた日記『十六夜日記』の一部である。阿仏尼の旅の目的は、所領播磨国細河荘の相続をめぐることで、息子為相とその異母兄為氏との裁判を行うことであつた。これを読んで、後の問い(問1〜7)に答えよ。

倭歌の道は、ただまこと少なく、あだなるすさみばかりと思ふ人もやあらむ。日の本の国に、天の岩戸開けし時より、四方の神たちの神楽の言葉をはじめ、世を治め物を和らぐるなかだちとなりけりとぞ、この道のひじりたちは記し置かれたりける。

さて又、集を撰ぶ人はためし多かれども、二度勅を受けて、代々に聞え上げたる家は、たぐひなほありがたくやありけむ。その跡にしもたづさはりて、三人の男子ども、百千の歌の古反古どもを、いかなる縁にかありけむ、あづかり持たる事あれど、「道を助けよ、子を育め、後の世をとへ」とて、深き契を結びおかれし細河の流れも、ゆゑなくせきとどめられしかば、跡とふ法の灯も、道を守り家をたすけむ親子の命も、もろともに消えをあらそふ年月を経て、あやふく心細きながら、何としてつれなく今日までながらふらむ。惜しからぬ身一つは、やすく思ひ捨つれども、子を思ふ心の間は、なほしのびがたく、道をかへりみる恨はやらむ方なくて、「さてもなほ、東の亀の鏡にうつさは、曇らぬ影もやあらはる」と、せめて思ひあまりて、万の憚りを忘れ、身を要なきものになしはてて、ゆくりもなく、いさよふ月に誘はれ出でなむとぞ思ひなりぬる。

(中略)

さのみ心弱くてもいかがとて、つれなくふり捨てつ。粟田口といふ所よりぞ、車は返し「つ」。程なく逢坂の関越ゆる程も、定めなき命は知らぬ旅なれど又逢坂と頼めてぞ行く

野路といふ所、来し方行く先、人も見えず、日は暮れかかりていと物悲しと思ふに、時雨さへ打ちそそく。

うち時雨れ故郷思ふ袖ぬれて行く先遠き野路の篠原

今夜は鏡といふ所に着くべしと定めつれど、暮れはてて、え行き着かず。守山といふ所にとどまりぬ。ここにも時雨なほ慕ひ

問 1 傍線部ア「世を治め物を和らぐるなかだち」になると作者が考えているものはなにか、本文中から抜き出せ。

問 2 傍線部イ・ウ・エ・クのひらがなを漢字に直せ。

問 3 傍線部オ「細河の流れも、ゆるなくせきとどめられしかば」を、比喩が使われていることがわかるように現代語に訳せ。

問 4 傍線部力の「」内の語を、正しく活用させて語句を完成させよ。

問 5 空欄 キ には歌が入る。文脈をふまえ、次の中から最もふさわしい歌を選び、その番号を記せ。

1 もる山も木のはかくれはのこりける待ちいつる程の秋の月影

2 あたら夜を誰にたのめて月影のもる山になくよふこ鳥かな

3 いとど我が袖ぬらせとや宿りけむ間なく時雨のもる山にしも

4 葦引の山の山もりもる山も紅葉せさする秋はきにけり

問 6 傍線部ケ「夏ならば打ち過ぎましやと見るに、かち人はなほ立ち寄りて汲むめり」を現代語に訳せ。

問 7 『十六夜日記』は鎌倉期の日記文学である。次の中から鎌倉期に成立した作品をすべて選び、その番号を記せ。

1 『蜻蛉日記』

2 『新古今和歌集』

3 『更級日記』

4 『古今著聞集』

5 『閑吟集』

6 『醒睡笑』